ニュース済生
THE NEWS SAISEI

発行所
社会福祉法人恩賜財団済生会
東京都港区三田1－4－28
ビルヂング21F　三田国際
電話　03・3454・3311
〒108・0073
FAX 03・3454・5576
編集兼発行人　炭谷　茂

https://www.saiseikai.or.jp/

学会・総会 新潟で

未来へ繋げ。済生会のこころ。

秋篠宮皇嗣殿下 御臨席

第72回済生会学会・令和元年度済生会総会が2月8、9日、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開かれた。総会では総裁・秋篠宮皇嗣殿下が御臨席になり、「おことば」を賜わった。学会は「新たなる時代へ。未来へ繋げ、済生会のこころ。」をテーマに新潟病院・吉田俊明院長が学会長を務め、全国から約2300人が参加した。新潟での開催は2回目、平成10年度の第51回に続き21年ぶり。（「済生」3月号で詳報）。

初日は四役会議や初期研修医合同セミナーなどが開かれ、2日目は基調講演、シンポジウム、医学・福祉共同研究、一般口演・ポスター発表、ランチョンセミナーなど研究成果を集めた学会が多彩に展開された。

午後3時30分からの総会では、国歌斉唱に続き、炭谷茂理事長が「2025年に向けた地域医療構想を踏まえ、病院機能の転換や地域包括ケアシステムを率先して推進していますが、日本最大の社会福祉法人として、また、公的医療機関として、積極的に地域住民のニーズに応えるため、これからも本部・支部・施設が一丸となって努力していきたい」と挨拶した。

学会・総会等の次第

2月8日（土）

経営管理会議（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター）▽四役連絡会議（同）▽四役会議＝病院長・事務（部）長・看護部長・福祉施設長（同）▽臨床研修管理担当者研修会（同）▽初期研修医合同セミナー（同）

2月9日（日）

〔学会〕

午前8時30分からマリンホールで吉田学会長が開会挨拶。公立学校法人長岡造形大学和田裕学長が「デザイン思考で未来を創る」と題して基調講演を行なった。その後、シンポジウムや口演・ポスター発表、ランチョンセミナーが展開された。

シンポジウム4題▽一般演題＝口演発表172題・ポスター発表282題・医学・福祉共同研究7題▽ランチョンセミナー10題

〔総会〕

総裁・秋篠宮皇嗣殿下御臨席の下、午後3時30分から展示ホールAで開催。

▽来賓祝辞

加藤勝信厚生労働大臣（代理：谷内繁厚生労働省社会・援護局長）、花角英世新潟県知事、中原八一新潟市長、冨田善彦新潟大学医歯学総合病院長

▽来賓紹介

藤田一隆新潟市医師会会長

▽表彰

名誉会員は村田実茨城県済生会支部長（前水戸済生会総合病院院長）、田嶌襄埼玉・特別養護老人ホーム彩光苑施設長、小金丸道彦福岡・大牟田ライフケア院施設長の3人。有功会員は唐川正洋大阪・泉尾医療福祉センター総長が登壇し、秋篠宮皇嗣殿下から表彰状を授与された。

功労会員3人、篤水賞1人、永年勤続表彰30年以上324人、20年以上673人、10年以上1616人の各代表に炭谷理事長から表彰状が手渡された。被表彰者を代表して村田支部長が謝辞を述べた。また、本会の名誉の向上に寄与した施設を表彰する令和賞で、炭谷理事長から〈富山〉高岡病院に表彰状と記念品が贈られた。

▽学会概況報告

吉田学会長が行ない、炭谷理事長から感謝状が贈られた。

▽次期学会長の委嘱ならびに挨拶

担当の熊本病院・中尾浩一院長に炭谷理事長から委嘱状が手渡された。

〔懇親会〕

秋篠宮皇嗣殿下をお迎えし、会場を展示ホールBに移して開かれた。皇嗣殿下が入場されると、参加者からひときわ大きな歓声が上がった。

上村朝輝新潟県済生会支部長の挨拶、藤田一隆新潟市医師会会長の祝辞に続き、園田孝志全国済生会病院長会会長（佐賀・唐津病院院長）が乾杯の音頭をとって開宴した。談笑の輪が広がり、三角隆彦同会副会長（神奈川・横浜市東部病院院長）の中締めで閉宴となった。（広報室）

初の学会記念講座に 市民ら約300人

学会を記念した初めての市民向け公開講座が2月8日、新潟ユニゾンプラザで開かれ、約300人が詰めかけた。

「おなかの健康は長寿の秘訣」と題し、腸内細菌研究の第一人者で理化学研究所の辨野義己先生をメイン講師に迎え、腸だけではなく口から肛門までをつながった1本の消化管としてとらえ、各所の細菌を紹介するユニークな講座となった。

本間照・新潟病院副院長が消化管の構造と人体の常在菌、両角祐子・日本歯科大学新潟生命歯学部准教授が歯周病と全身の関わりを解説。辨野先生は「大腸を制することが健康寿命100歳の秘訣。ビフィズス菌と酪酸生産菌という長寿菌を活性化することが大切で、菌のエサとなる食物繊維や発酵食品をたくさん摂りましょう」と訴えた。

座長の寺井崇二・新潟大学大学院医歯学総合研究科教授と閉会の挨拶に立った新潟県済生会の上村朝輝支部長は「辨野先生のアドバイスを実行に移し、皆さん長生きしましょう」と、それぞれ呼びかけた。（広報室）

学会・総会を顧みて

第72回済生会学会学会長
新潟病院院長
吉田俊明

秋篠宮皇嗣殿下のご臨席を賜り、第72回済生会学会、令和元年度済生会総会を開催できましたこと、誠に光栄なことと存じます。学会テーマを「新たなる時代へ。未来へ繋げ、済生会のこころ。」としました。令和という新たな時代を迎える中でも、済生会のこころを忘れることなく引き継いでいき、医療・福祉の分野で地域に貢献し続けようとの気持ちを表したものです。

全国より2300人を超えるご参加をいただき、基調講演、四つのシンポジウム、一般演題、そして10題のランチョンセミナーを行ないました。

基調講演は長岡造形大学学長の和田裕先生に「デザイン思考で未来を創る」と題してご講演をいただきました。全てのプロジェクトは送り手・受け手の思い、願い、希望を重視し、互いの共感に基づいて実施されることにより、新たな価値を創造できるとの内容で、私ども医療者にとっても示唆に富む素晴らしい講演でした。

シンポジウム「済生会の目指すまちづくり」では、行政および地域事業所、住民との活発な交流について報告されました。済生会は中期事業としてまちづくりへの寄与を推進しており、少子高齢化や人口減少に直面している社会に対して済生会が貢献できる分野の多いことを再確認できました。

「済生会のすすめる国際貢献」では、ベトナム・ダナンがん病院、ミャンマー・ヤンゴン第一医科大学および中国・上海健康医学院との関わりが報告されました。長年支部単位で実施されてきた国際貢献が本部主導の活動に変わり、済生会の国際貢献が確実に進化している状況を誇りに思います。

「済生会が目指す地域包括ケア」では、各地域の実情に応じた地域包括ケアを構築してゆくに際し、医療と介護両面の機能を有する済生会は重要な役割を担うべきとのご意見をいただきました。

「済生会ブランディングに資するネットワークの力～組織横断活動の有効性～」では、全国済生会泌尿器科医会や看護部長会、事務部長会、薬剤師会、そして済生会ネットワーク治験の活動が報告されました。人材育成に重点を置いた活動が多く、その結果として済生会のブランディングを高めているものと感じました。

一般演題では、口演172題、ポスター282題、医学・福祉共同研究7題、合計461題の発表があり、活発な質疑応答がなされました。

今回初めての試みとして市民公開講座を開催しました。理化学研究所辨野特別研究室の辨野義己先生をお招きし、「〝長寿菌〟がいのちを守る！～健康長寿100歳をめざして～」と題して腸内フローラについて講演をいただきました。最新の知見を交えた内容で、300人を超える市民と医療関係者に感銘を与えました。

総会では秋篠宮皇嗣殿下より、自然災害および少子高齢化について触れられ、済生会の理念のもと地域住民の生活を支える役割を果たしてゆくことを希望するとのお言葉をいただきました。ご来賓の方々からは、済生会への温かい評価のお言葉をいただきました。また、総会の席で表彰を受けられた方々に心からお祝いを申しあげます。

済生会学会ならびに済生会総会を無事に終えることができました。これもひとえに、ご臨席いただいた秋篠宮皇嗣殿下、炭谷理事長をはじめとする済生会の皆様、ご来賓の皆様、全国から参加・協力いただいた済生会職員の皆様のおかげと心から感謝を申し上げます。また、運営に尽力した新潟病院・三条病院の職員に心よりお礼を申し上げます。

高松宮記念基金にご協力ください

平成31年1月～令和1年12月分実績

◎本会会員加入状況
40,256人　89.1％
45,534口　9,106万円
◎外部会員加入状況
2人　3万円
◎一時寄付状況
43件　374万円
（内、自販機関係　77万円）
◎募金箱　85万円

令和2年1月分実績

◎本会会員加入状況
24,941人　55.2％
28,345口　5,669万円
◎外部会員加入状況
◎一時寄付状況
4件　2万円
（内、自販機関係　1万円）
◎募金箱　4万円

高松宮記念基金に寄贈

キヤノンメディカルシステムズ株式会社殿
50万円（本部扱い）

GREEN PRINTING JFPI P-B10139
グリーン・プリンティング
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

初の「令和賞」に高岡
イオン・市と、まちづくりへ

令和の新時代に済生会がさらに飛躍していくため本会の名誉の向上に寄与した施設を顕彰する「済生会令和賞」の第1号施設に〈富山〉高岡病院が選ばれた。2月9日、済生会総会で行なわれた表彰式で、炭谷茂理事長から野田八嗣院長に表彰状、下崎ふみ子看護部長に記念の盾が贈られた。

この賞は、患者・利用者に対するサービスの質の向上や経営の改善、地域貢献など、職員が一丸となって取り組んでいる施設を年1回、顕彰するもので、昨年10月の理事会・評議員会で創設が決まった。

高岡病院は、平成30年10月に高岡市と介護・保健・福祉の連携を図る包括連携協定を締結。訪問看護や訪問リハビリの拡充と病児保育、一時預かり保育を行なう「済生会高岡福祉・保育総合センター」を開設し、地域包括ケアに積極的に取り組むとともに、令和1年6月にイオンモール高岡と協働して地域住民の健康づくりや子育て支援を行なう覚書を締結。福祉や健康面で「まちづくり」事業に取り組むなどソーシャルインクルージョンの推進に努めていることが評価された。

機関誌済生3月号で受賞のコメントを掲載する。（広報室）

医療安全推進会議終了
今後はブロック単位で
災害・安全管理委

災害・安全管理対策委員会が1月28日、本部で開かれ、以下のことが決まった。

【審議事項】
災害救援活動規則に基づく災害訓練の計画

これまでのブロック別災害訓練・研修会費補助の制度は、本年度で終了する。昨年度から始まったブロック単位で行なう大規模訓練は、本部事務局と開催ブロックの災害基幹病院の共催で引き続き実施し、この大規模訓練の対象外の5ブロックでは、来年度から要点を絞った研修会と被災地で活動する支援者を養成する研修プログラムを新たに企画する。

なお、各ブロックの災害基幹・準基幹病院とDCAT派遣調整施設は、災害救援活動規則に基づき主体的に通信訓練や研修会を企画して引き続きブロック内の連携強化に努める。

【協議事項】
①自治体から要請等の対外的な災害救援活動体制
対外的に活動する支援チーム編成の準備を進めることが承認され、支援チームを機能的にどう活用していくかは議論を継続する。
②医療安全推進会議の実施報告と今後の開催方針
年1回開催の医療安全推進会議は本年度で終了。今後は、ブロック会議の場などを活用し、ブロック単位で医療安全管理者を対象に情報共有の場を設けていく。

【報告事項】
①ブロック別災害訓練・研修会実施状況②本部に報告された医療事故一覧

（事業推進課）

予測退職者650人
退職手当委員会

退職手当等運営委員会が2月4日、本部で開かれた。広島県済生会の隅井浩治支部長が委員長に選出され、「令和2年度退職手当等事業計画及び同会計予算（案）」を審議。同年度の退職手当等事業登録者数を1万326人、支給対象の退職者数を650人と予測した。これをもとに積立金収入を36億2600万円、支出の退職手当金を25億9900万円と見込んだ原案通り承認された。

報告事項の「退職手当等事業の数理計算の結果」では、平成31年3月31日を計算基準日とした数理計算の結果、適正な掛金率は10・8％となり、現行の掛金率11％は適正な水準にある。同日における保有資産は532億円で、現行制度を維持した場合の責任準備金486億円を46億円上回り、退職手当等事業の運営は適正に行なわれている。（厚生課）

「済生会の力」14集刊行
糖尿病と上手に付き合う

職員に済生会の持つパワーを再認識してもらう「シリーズ済生会の力」の第14集「糖尿病と上手に付き合う」が刊行された。

予備軍を入れると国内に2000万人ともいわれる糖尿病はまさに国民病。国家的な課題に挑む済生会の横断的研究組織「全国済生会糖尿病研究会」の活動を紹介している。

イベントや職員募集など済生会の活動を外部に知ってもらう際に配布することを見込んでいる。無料だが、品切れの場合があるため、必要部数は時間的に余裕をもって広報室に申し込む。（広報室）

病院経営戦略立案研修
半年後に課題点を論議

「データを活用した病院経営戦略の立案に関する研修会」が1月31日、本部で開かれた。本研修は二部構成で、7月開催の同研修受講者のうち26人が参加した。病院の管理会議など意思決定を行なう場で自院の経営情報を報告する担当者が、経営戦略策定に必要な知識を習得して病院経営の強化を図ることが目的。

7月の研修では、病院内外のデータを基にした現状分析を行なう手法を学んだ。受講者は自院の①周辺環境②患者層の特徴③強みとなる経営資源④ターゲットとすべき患者層と連携病院の4点について考察、経営会議や上長へ報告した。

今回の研修では、①経営会議・上長報告内容②病院の課題点③課題点に対する半年間の取り組み④課題点に対する取り組みで明らかになった新たな問題点の4点について受講者全員が報告し、同じ課題を抱える病院とディスカッションをした。

受講者からは「自分の作成した資料が力不足に感じるくらい他院の発表がよかった」「各病院の取り組みを参考に自院に戻って新たな改善に取り組みたい」「もう少しじっくり話を聞きたい取り組みの報告が多かった」という意見があった。

本研修は初の試みだったが、スケジュールや実施方法等を見直して来年度以降の開催を検討する。（情報管理課）

寄贈

埼玉県済生会
篠田和幸殿　500万円（川口総合病院へ）
東京都済生会
出光正道殿　200万円（中央病院へ）
神奈川県済生会
青木秀夫殿　200万円
藍原千賀子殿　50万円（神奈川県病院へ）
富山県済生会
石黒重男殿　50万円（富山病院へ）
福井県済生会
クァトロブーム株式会社殿　200万円（福井県済生会病院へ）
大阪府済生会
河内幸枝殿　100万円（吹田病院へ）
兵庫県済生会
百岳富美乃殿　50万円（兵庫県病院へ）
佐賀県済生会
宮﨑充啓殿　500万円（唐津病院へ）

3月の予定

2日＝共済事業運営委員会（本部）
10日＝損害填補審議会（本部）
10日＝経営基盤強化等に関する検討会（本部）
12日＝次世代事務部門経営責任者研修（本部）
13日＝理事会（本部）
16～17日＝医療技術者マネジメント研修（本部）
19日＝広報委員会（本部）
23日＝評議員会（本部）

70人参加、MSW・生活困窮者支援事業研修会

令和元年度MSW・生活困窮者支援事業研修会が1月9～10日、本部で開かれ70人が参加した。

炭谷茂理事長が「済生会におけるMSW事業の理論と方法」と題して講演、「済生会のソーシャルワーカーが日本のMSWをけん引してほしい」と強い期待を述べた。続いて、〈福島〉川俣病院の櫻井公大氏、〈大阪〉富田林病院の吉松利通氏、〈三重〉松阪総合病院の奥村裕司氏・山本泰広氏が、各施設の無料低額診療事業と生活困窮者支援事業（なでしこプラン）の実践状況を報告した。

2日目は、神奈川県立保健福祉大学の山崎美貴子名誉教授・顧問が「地域を基盤としたソーシャルワークの動向と特質」について講演。ソーシャルワーカーが担うべき役割や、要介護者を中心にその周辺の社会資源の相関関係を表現した「エコマップ」の活用、社会資源の分類を解説。その後のグループワークでは、各グループでエコマップを作成し利用者のための社会資源について話し合った。

参加者からは「MSWの業務が済生会の理念と密接につながっていることを感じた」「地域での生活をどのように支援するのか、理論やツールを学ぶことが出来た」などの感想が聞かれた。

情報交換会では、障害者就労継続支援事業を行なう熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」のパウンドケーキや、松山ワークステーション「なでしこ」のクッキーなどが用意され、参加者同士、交流を図った。

（社会福祉・地域包括ケア課）

中堅看護師AM研修Ⅲ
73施設から80人参加

中堅看護師（全国済生会看護職教育体系クリニカルラダー・レベルⅢ以上）を対象としたアドバンス・マネジメント研修Ⅲが1月22～24日、本部で開かれ、73施設から80人が参加した。

初日、炭谷茂理事長は「看護に関する済生会原論～済生会の飛躍的発展を目指して～」と題し基調説明。「優れた人材は、組織の理念の旗のもとに集まる。厳しい経営状況の中、支部・施設・本部が一体となって攻めの姿勢を持ってこの危機を乗り切りたい」と訴えた。

2日目は、関東学院大学大学院看護学研究科の金井Pak雅子教授が「より輝ける看護師を目指して」と題し講義。組織における問題解決に関し、効果的なコミュニケーションスキルについて事例をもとに解説した。将来のリーダーを見据え、「変革推進者として組織全体を俯瞰してみてほしい」と語った。

高輪心理臨床研究所主宰の岸良範氏は「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場を目指して―」と題し、講義とグループワークを3日間通して行なった。人間関係の構築には相手に敬意を払って話を「聴く」ことが重要と解説。グループワークでは、「スタッフと話しやすい環境（時間と場所）をマネジメントする」「リーダーとしてスタッフと上司との橋渡しできるような環境作りに努めたい」といった意見があった。岸氏は「相反する意見でも、相手を認め、尊重しあえる関係を作っていくことが大切。反対意見でも組織の新たな価値観となり、多くの『知恵』となる」と総括した。（看護室）